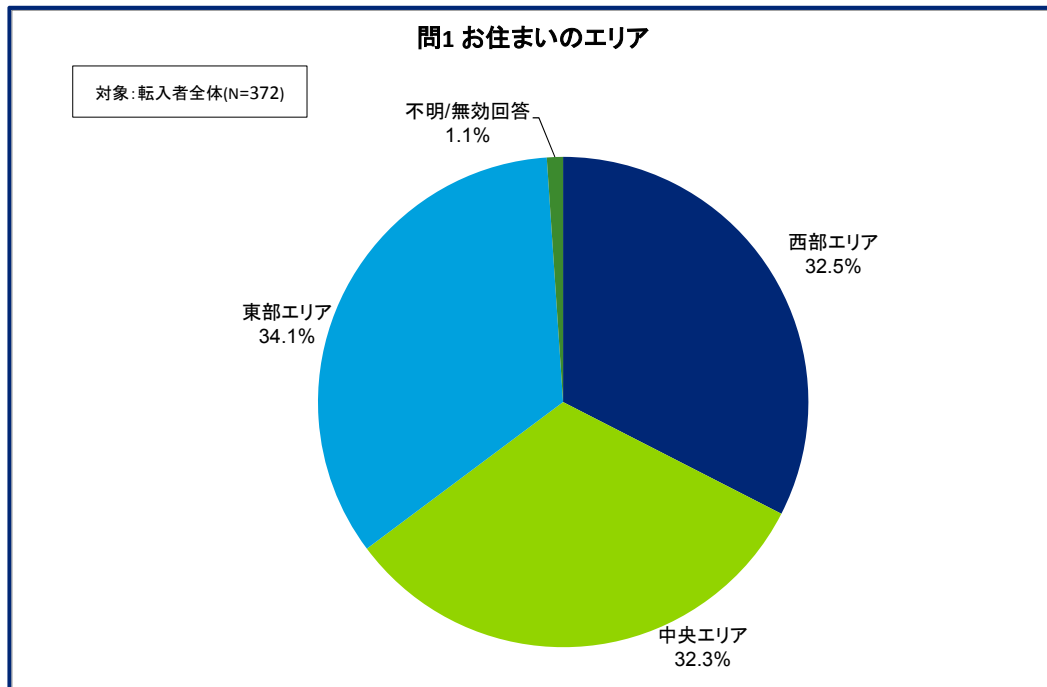


ア調査結果

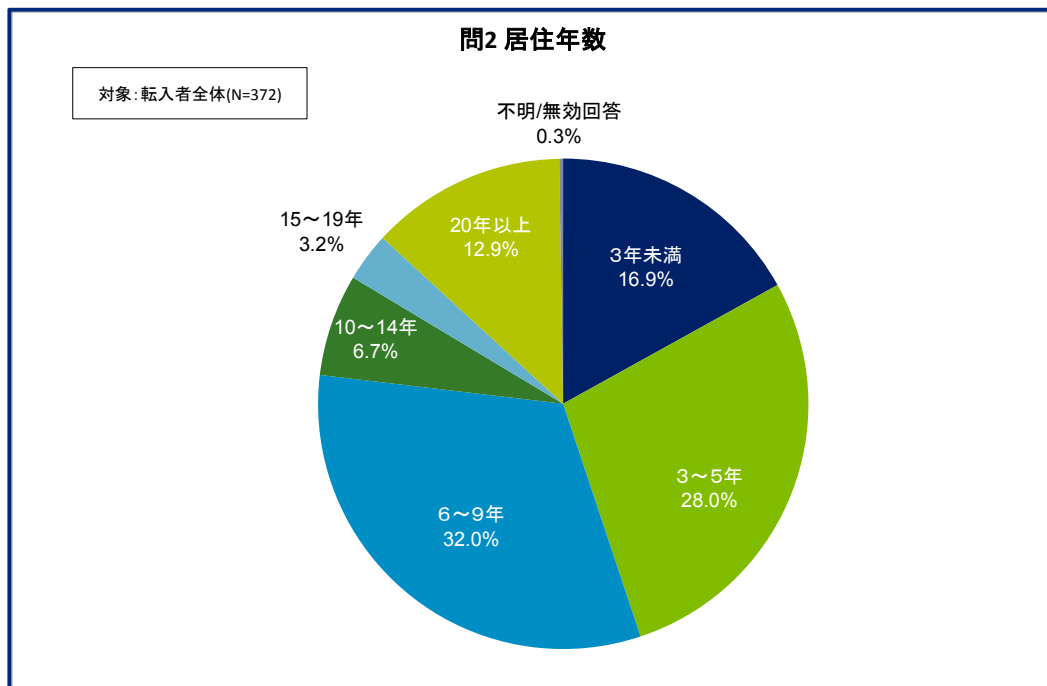
(7) 居住区 (問 1)

- 回答者の居住区は、「東部エリア」(34.1%)、「西部エリア」(32.5%)、「中央エリア」(32.3%)の順に多い。



(4) 居住年数 (問 2)

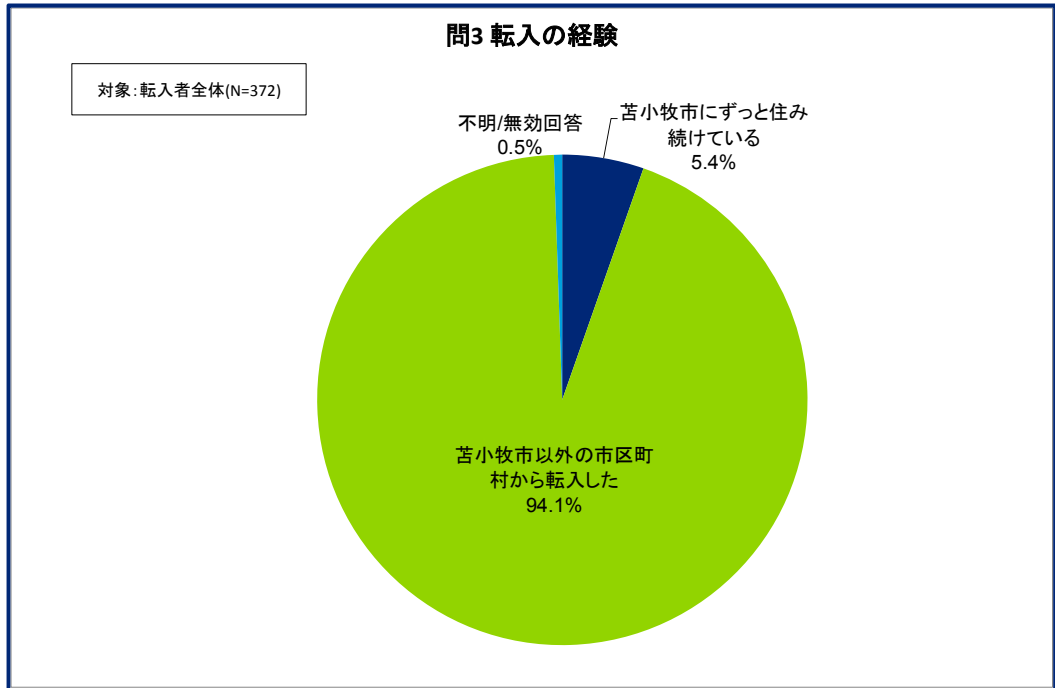
- 苫小牧市での居住年数は、「6～9年」が32.0%ともっとも多く、次点は「3～5年」(28.0%)となっている。



(ウ) 転入経験の有無、転入のきっかけ及び苦小牧市以外の転入検討先

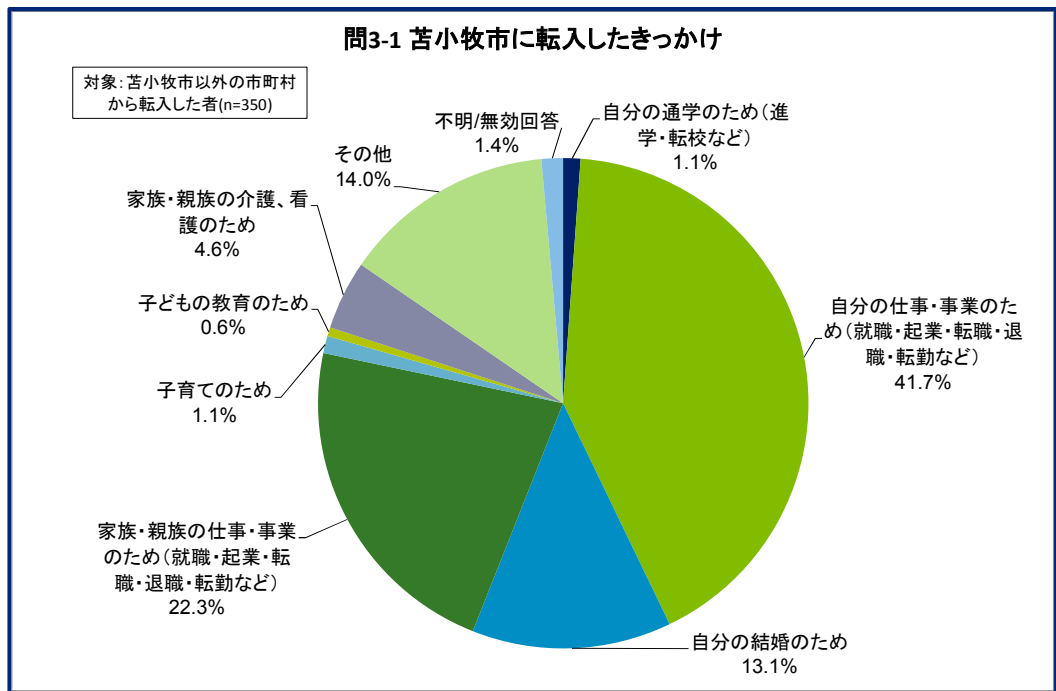
① 転入経験（問3）

- ・ 転入の経験をみると、「苦小牧以外の市区町村から転入した」のが94.1%であった。



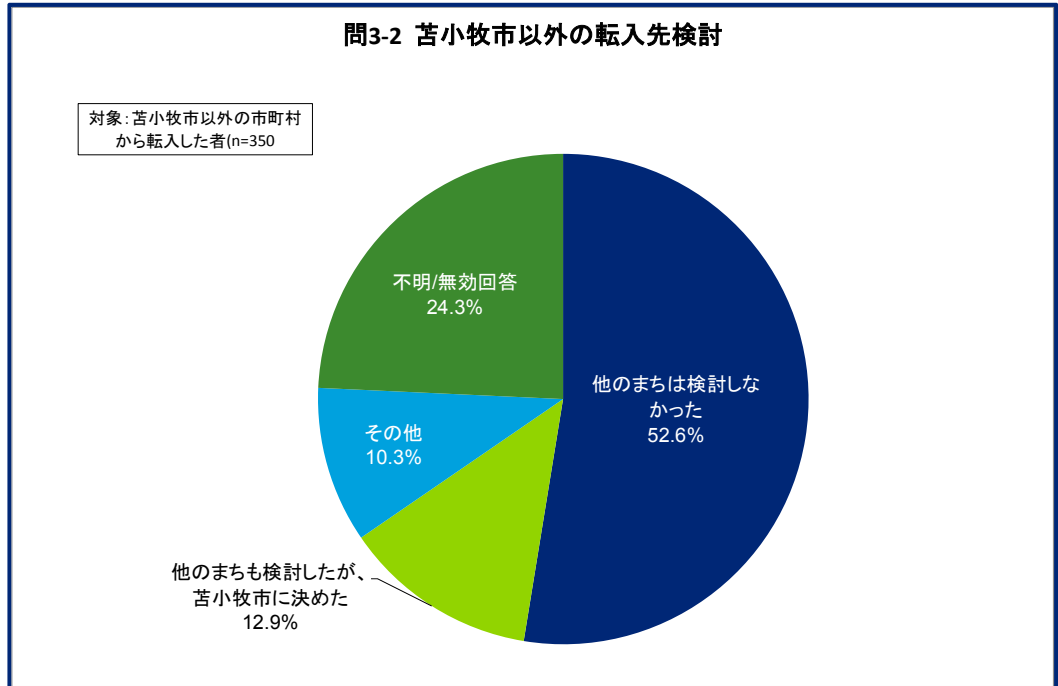
② 苦小牧市に転入したきっかけ（問3-1）

- ・ 転入経験ありの回答者に、転入のきっかけをきいたところ、「自分の仕事・事業のため」(41.7%)、「家族・親族の仕事・事業のため」(22.3%)、「自分の結婚のため」(13.1%)が上位を占めている。



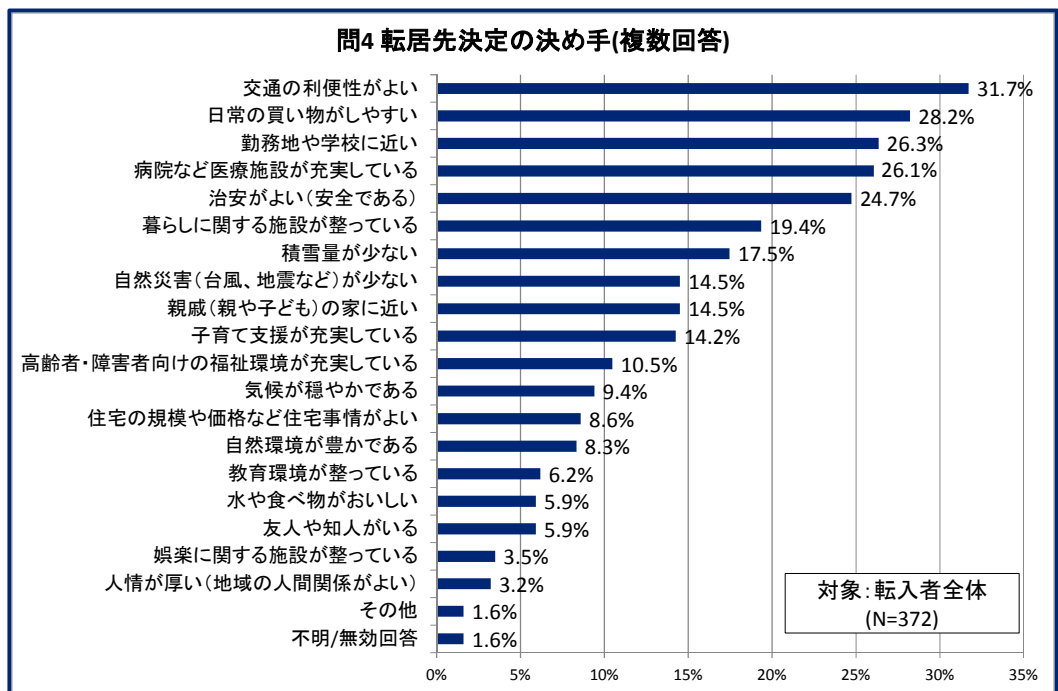
③ 苫小牧以外の転入先検討（問 3-2）

- ・ 転入時に「他のまちは検討しなかった」回答者は 52.6%と過半数であり、「他のまちも検討したが苫小牧市に決めた」回答者（12.9%）を上回っている。



(I) 転居先決定の決め手（問 4）

- ・ 転居先を決める際に考慮する環境として重要なもの（転居先決定の決め手）としては、「交通の利便性がよい」（31.7%）、「日常の買い物がしやすい」（28.2%）、「勤務地や学校に近い」（26.3%）が上位3項目であった。



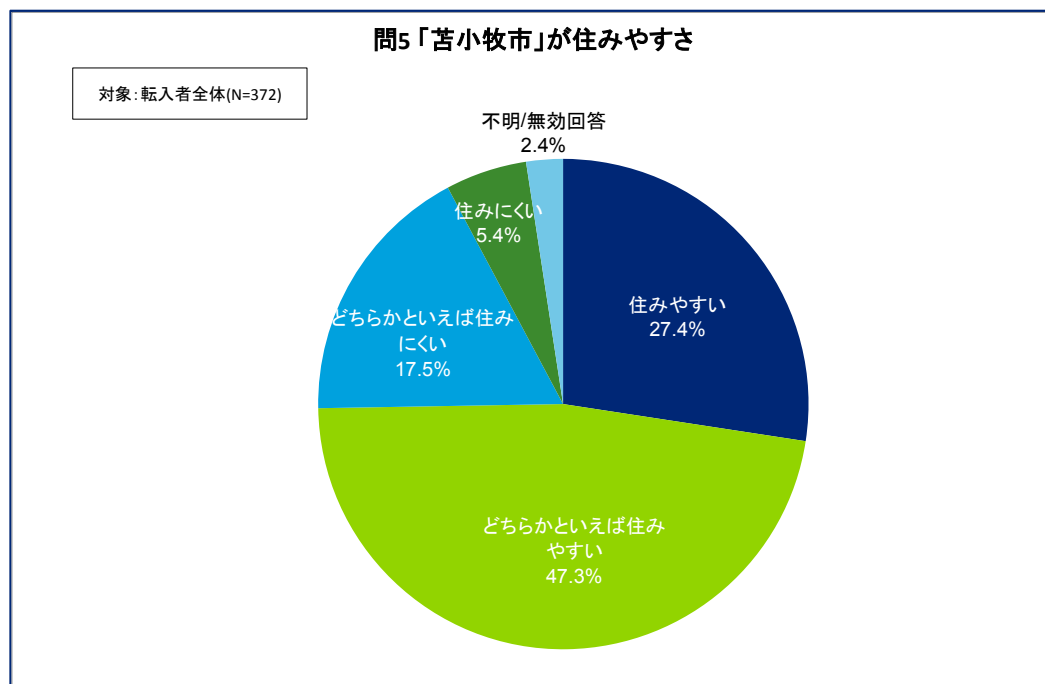
(II) 苫小牧市の住みやすさ及びその理由

① 苫小牧市の住みやすさ（問 5）

- ・ 苫小牧市は「住みやすい」と回答した者は 27.4%であり、「どちらかといえば住み

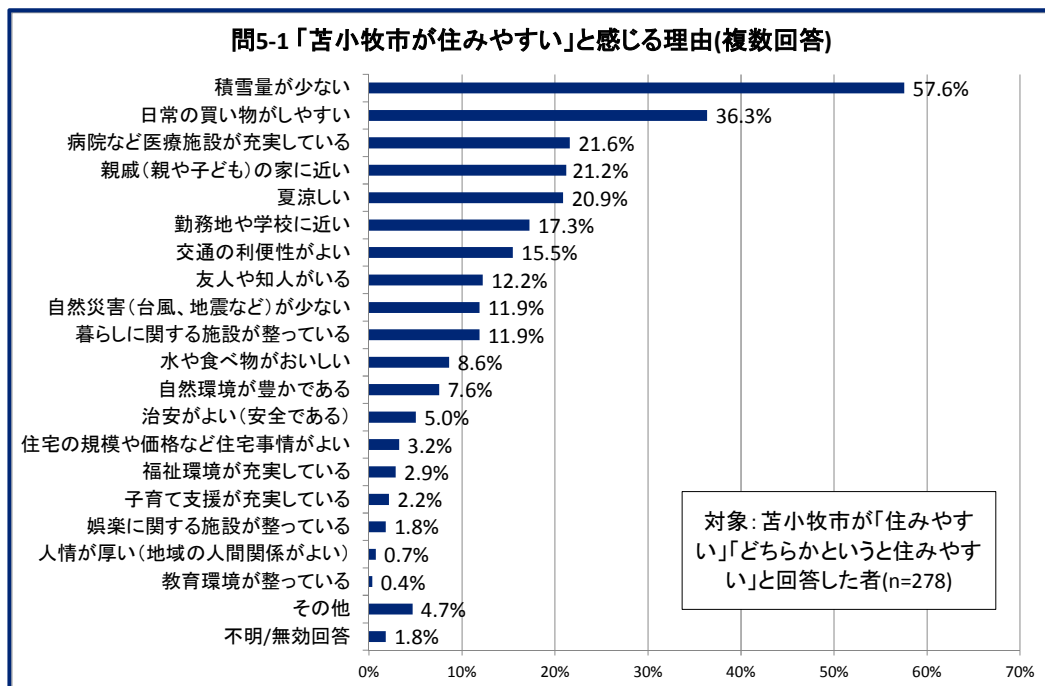
やすい」と回答した者 47.3%を加えると、74.7%程度の住民が「住みやすい」と回答している。

- 一方、「住みにくい」と回答した者は 5.4%、「どちらかといえば住みにくい」と回答した者を加えると 22.9%となる。



② 住みやすさの理由 (問 5-1)

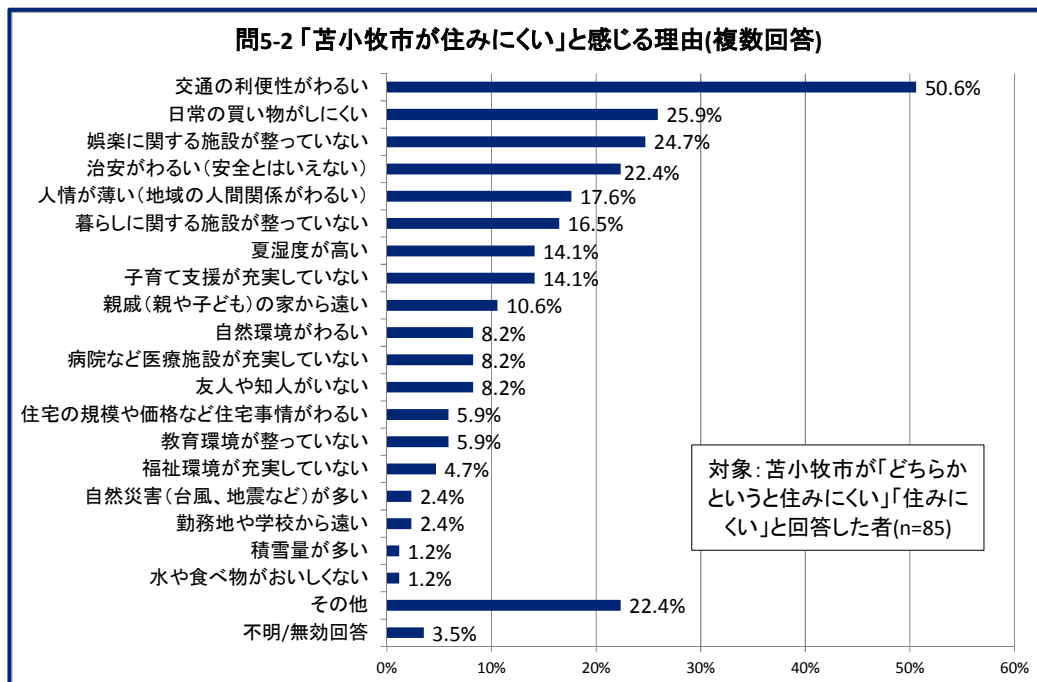
- 苦小牧市は住みやすいと回答した者に、住みやすい理由をきくと、もっとも多いのは「積雪量が少ない」(57.6%)であった。また「日常の買い物がしやすい」(36.3%)との回答も多い。



③ 住みにくい理由 (問 5-2)

- 本市は住みにくいと回答した者に、住みにくい理由をきくと、「交通の利便性がわるい」が 50.6%と過半数を超えている。

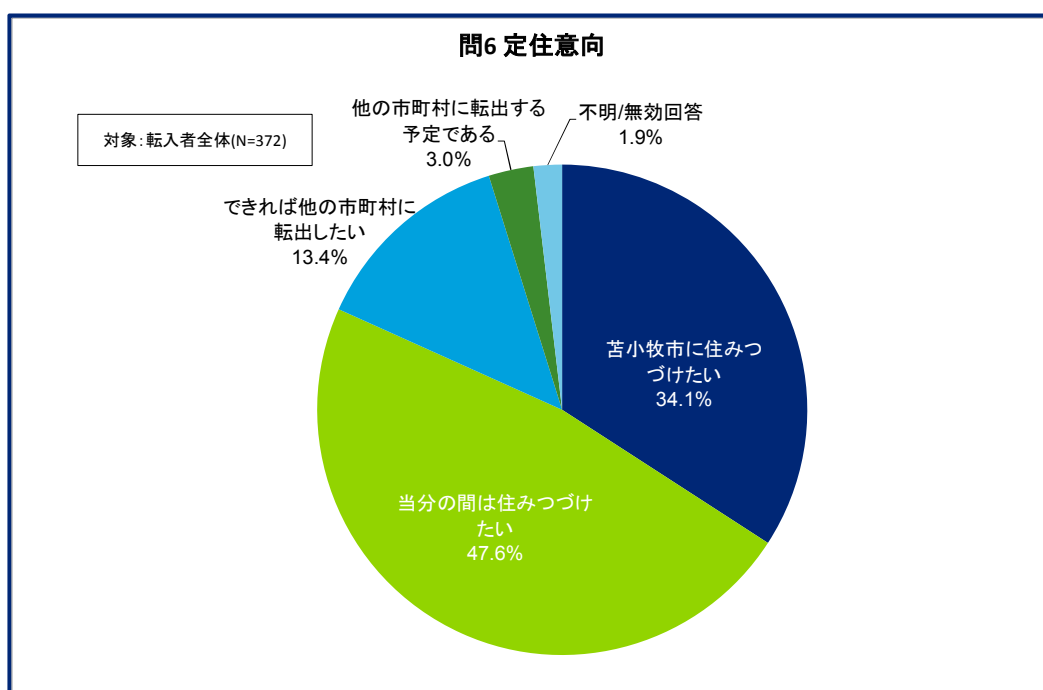
- 上記の住みやすい理由（問5-1）では、「日常の買い物がしやすい」が2番目に多かった。一方住みにくい理由として、その反対の項目である「日常の買い物がしにくい」が上位2番目であった。買い物のしやすさで意見が分かれているのは、住んでいる地域によりその利便性が異なるためと考えられる。



(カ) 苦小牧市への定住意向、転出希望先及び転出する理由(問6)

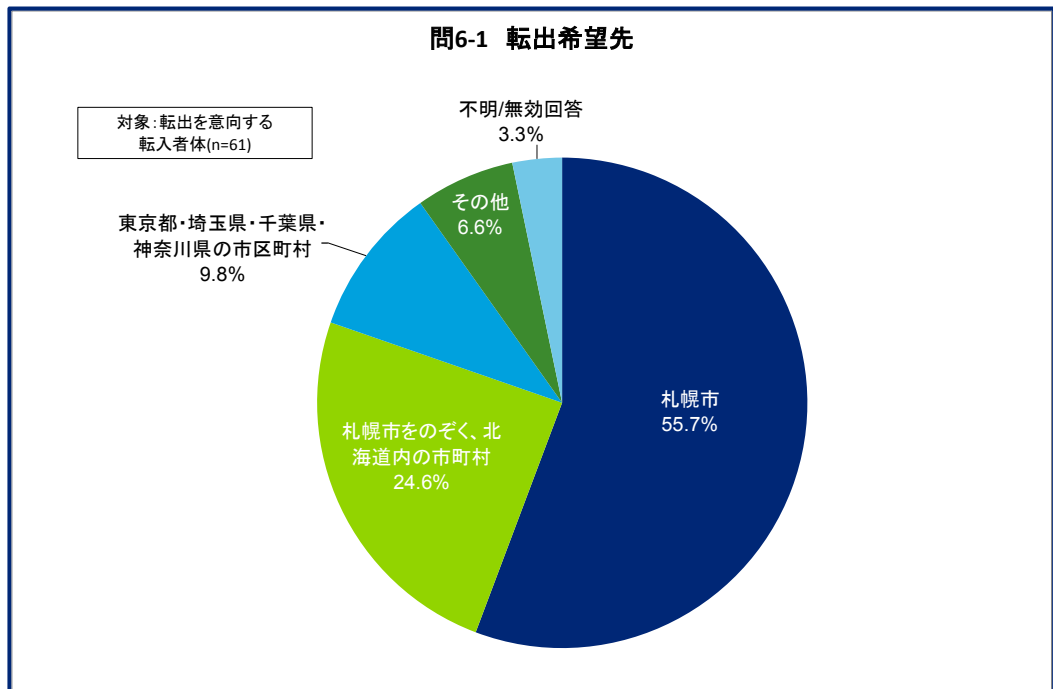
① 苦小牧市への定住意向

- 「苦小牧市に住みつづけたい」と回答した者は 34.1%、「当分の間は住みつづけたい」と回答した者は 47.6%で、合わせると 81.7%が住みつづけたいと回答している。
- 一方、「できれば他の市町村に転出したい」と回答した者は 13.4%で、「他の市町村に転出する予定である」と回答した者(3.0%)を加えると 16.4%となる。



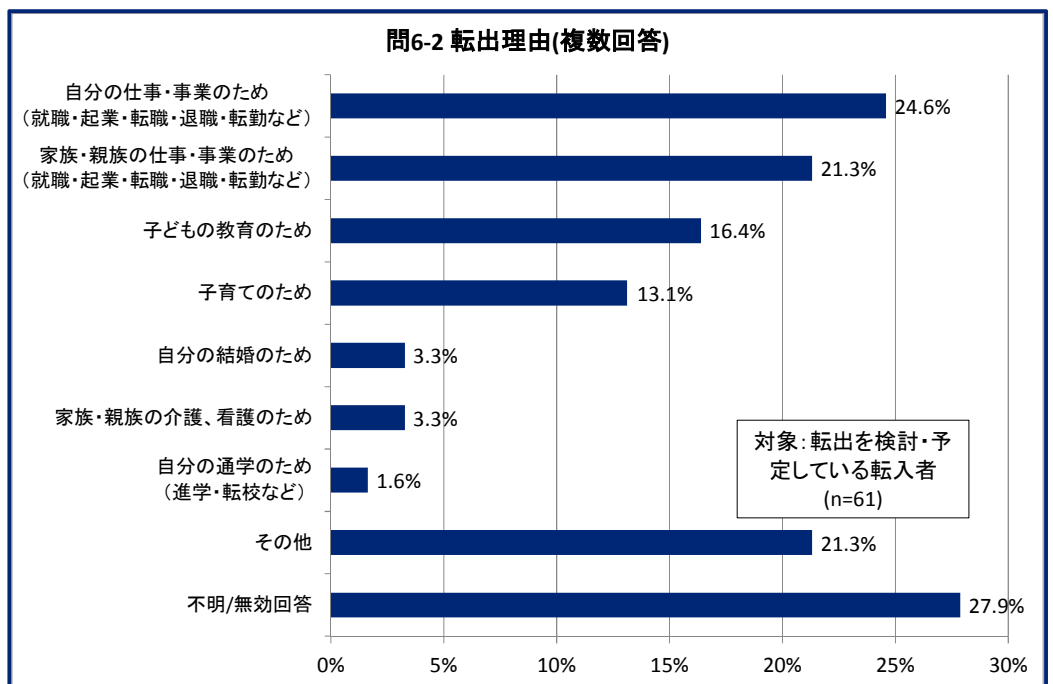
② 転出希望先(問 6-1)

- この転出したい又は転出予定の回答者に対し、転出希望先をきいたところ、「札幌市」が 55.7%と最も多く、「札幌市をのぞく、北海道内の市町村」が 24.6%、「東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県」の市区町村」が 9.8%となっている。



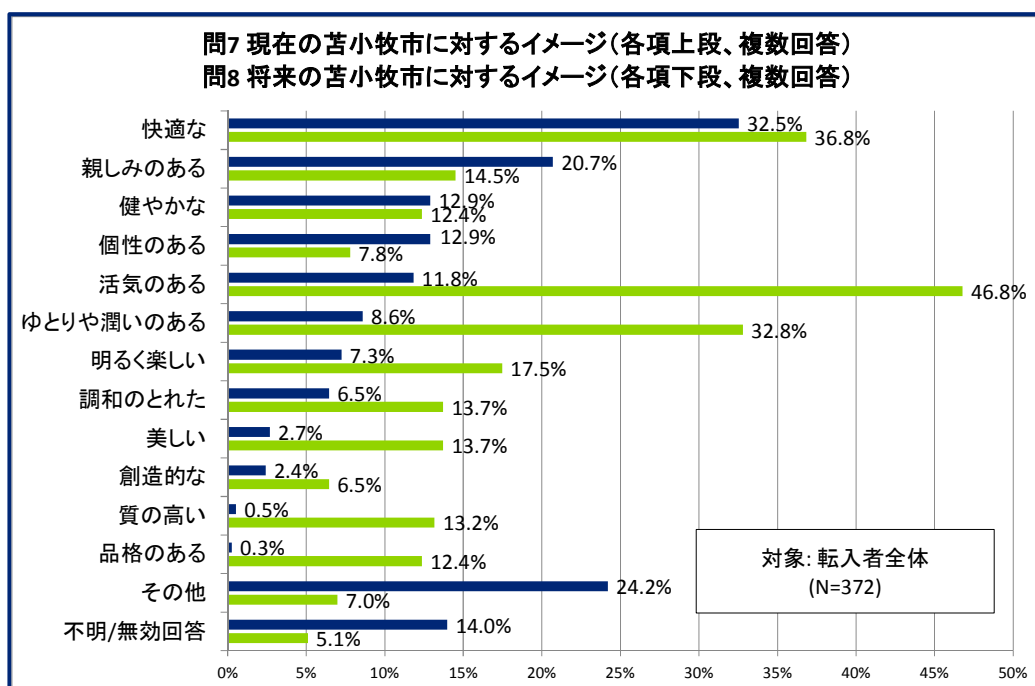
③ 転出の理由(問 6-2)

- 転出する理由としては、「自分の仕事・事業のため」(24.6%)、「家族・親族の仕事・事業のため」(21.3%)と仕事関係が上位2項目となっている。
- また「子どもの教育のため」(16.4%)、「子育てのため」(13.1%)と、子どもに関する項目が、仕事に関する項目に続いて多い傾向にある。



(キ) 苦小牧市のイメージ (問7)

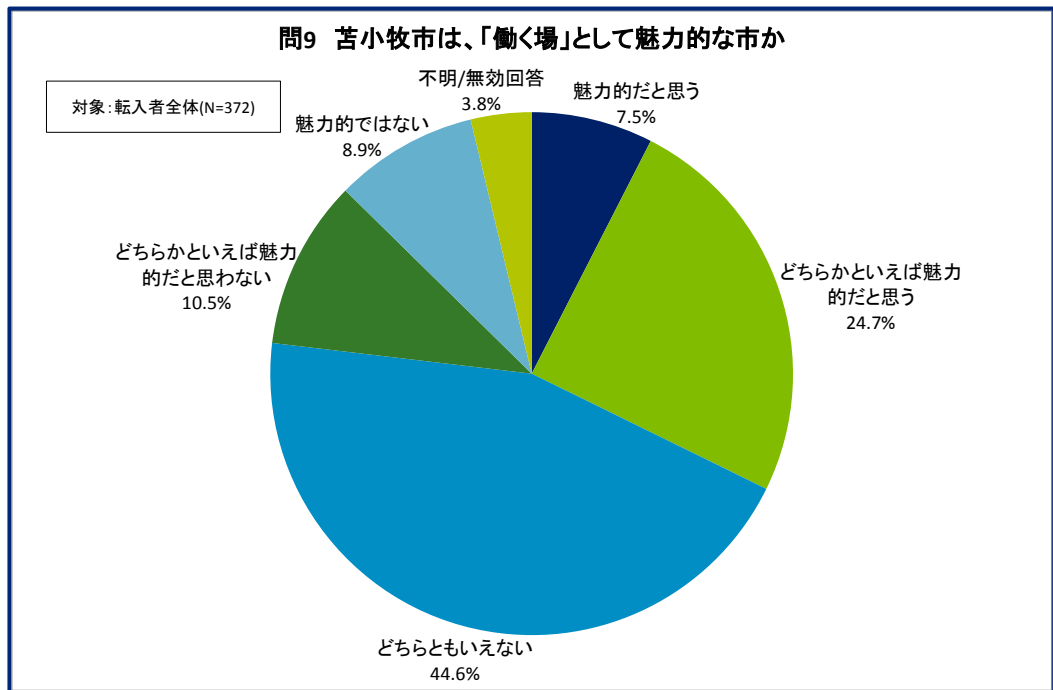
- 現在の苦小牧市のイメージとしては、「快適な」(32.5%)、「親しみのある」(20.7%)と回答した者が多く、「質の高い」(0.5%)、「品格のある」(0.3%)と回答した者が少なかった。
- 一方将来の苦小牧市のイメージとしては、「活気のある」(46.8%)、「快適な」(36.8%)、「ゆとりや潤いのある」(32.8%)と回答した者が多く、「個性のある」(7.8%)、「創造的な」(6.5%)と回答した者が少ない。
- 現在と将来を比較すると、「活気のある」や「ゆとりや潤いのある」、「快適な」は将来が現在を上回っている。その中でも「活気のある」および「ゆとりや潤いのある」は大きな差が見られる。



(ク) 働く場としての苦小牧市の魅力度とその理由

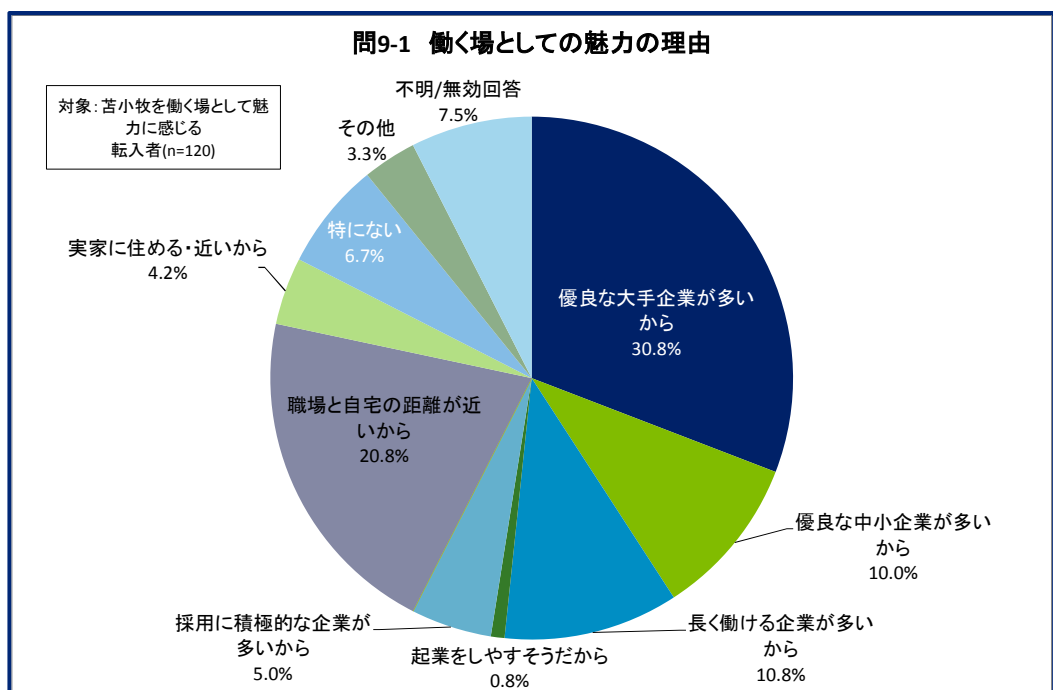
① 働く場としての苦小牧市の魅力度(問9)

- 働く場として苦小牧市を魅力的だと回答しているのは、「魅力的だと思う」(7.5%)と「どちらかといえば魅力的だと思う」(24.7%)を合わせて、32.2%である。
- 一方、「魅力的ではない」との回答は、「どちらかというとも魅力的だと思わない」との回答を合わせて19.4%となっている。



② 働く場としての苦小牧市の魅力の理由(問9-1)

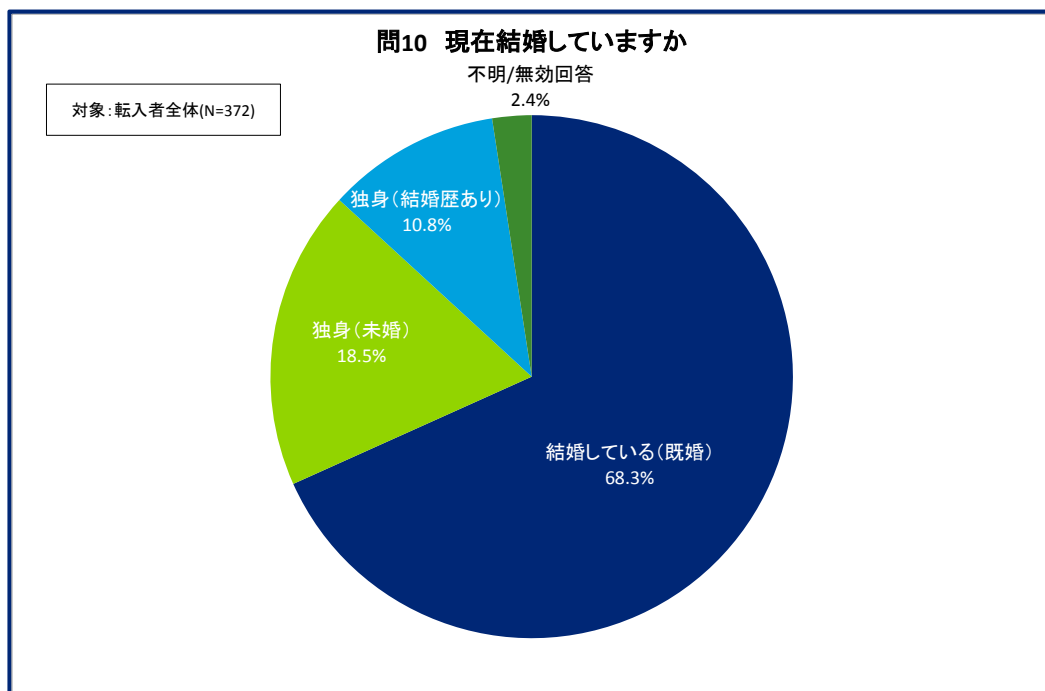
- ・ 苦小牧市を働く場として魅力的だと感じる理由をきくと、「優良な大手企業が多いから」(30.8%)、「職場と自宅の距離が近いから」(20.8%)、「長く働ける企業が多いから」(10.8%)、「優良な中小企業が多いから」(10.0%)が上位を占めている。



(ケ) 婚姻状況と結婚への意向

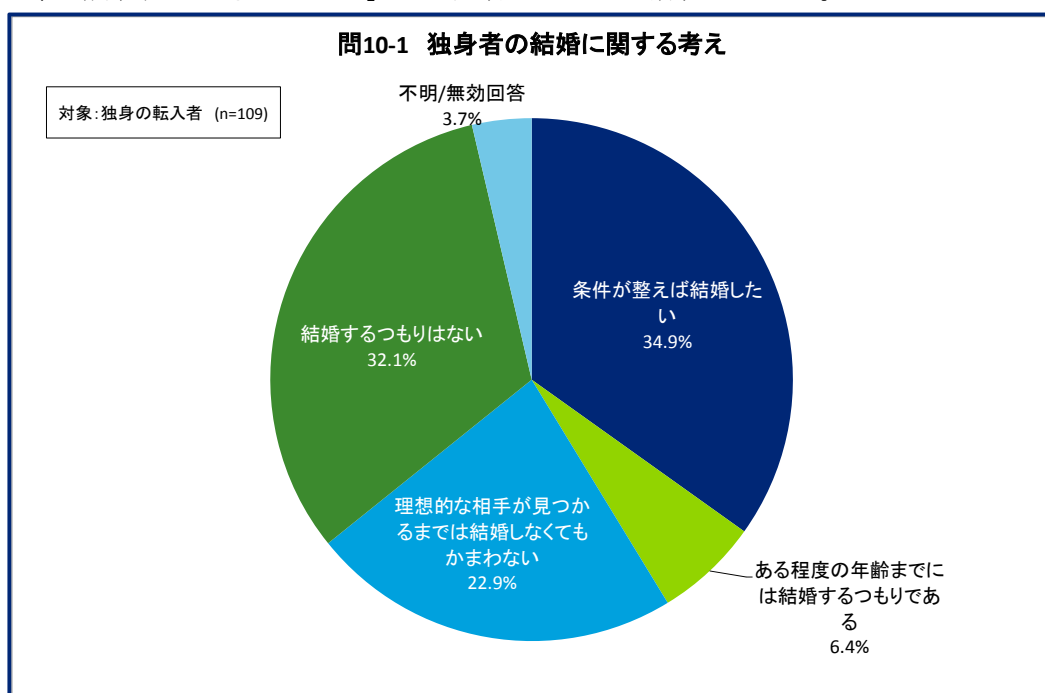
① 婚姻状況(問10)

- ・ 回答者の婚姻状況を見ると、既婚者が68.3%、独身(未婚)が18.5%、独身(結婚歴あり)が10.8%となっている。



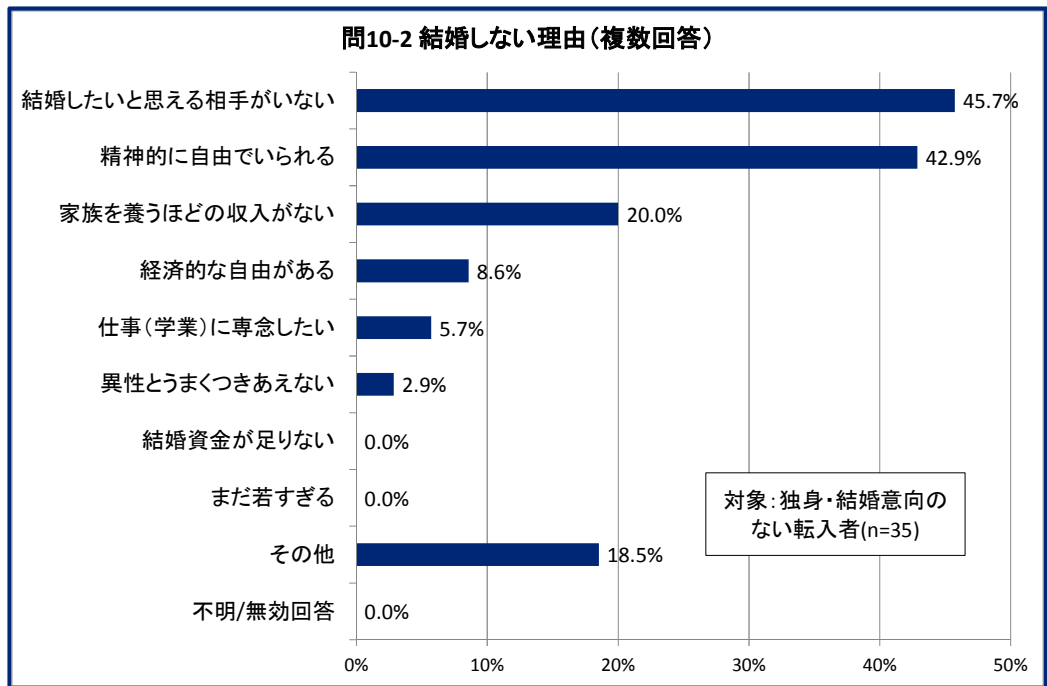
② 独身者の結婚に関する考え(問10-1)

- 独身者の結婚に関する考えでは、「条件が整えば結婚したい」との回答は 34.9% で、「結婚するつもりはない」との回答は 32.1%と拮抗している。



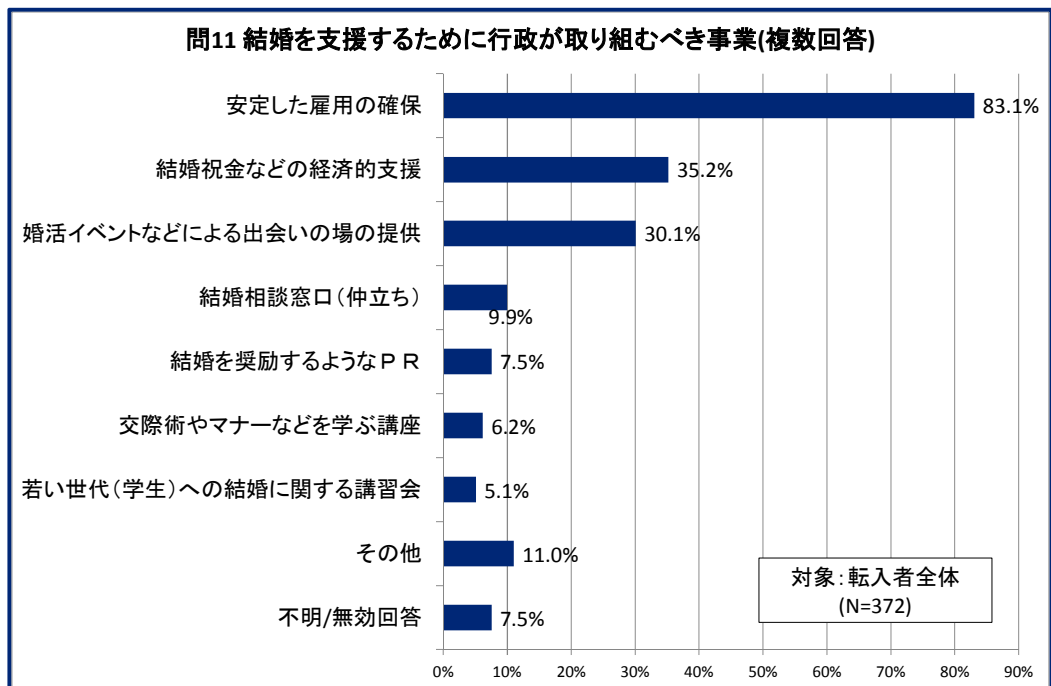
③ 結婚しない理由(問10-2)

- 独身で結婚するつもりはないと回答した者に理由をきくと、「結婚したいと思える相手がいない」(45.7%)と「精神的に自由でいられる」(42.9%)が多い。



(コ) 結婚支援のために行政が取り組むべき事業

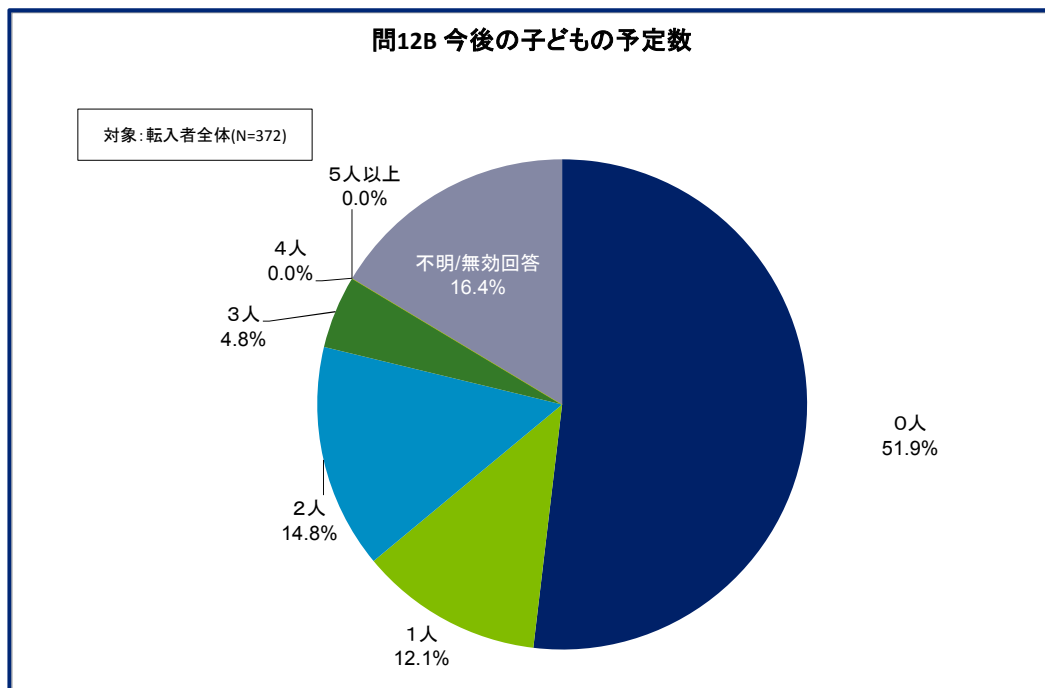
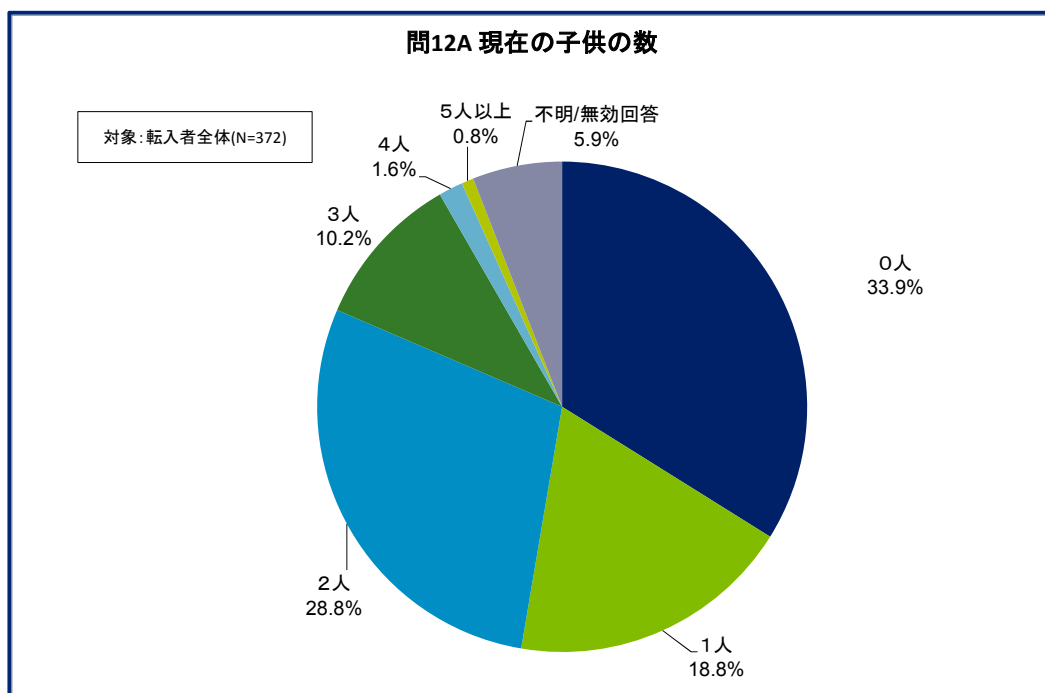
- 結婚支援のために行政が取り組むべき事業としては、「安定した雇用の確保」(83.1%)との回答がもっとも多く、「結婚祝金などの経済的支援」(35.2%)、「婚活イベントなどによる出会いの場の提供」(30.1%)が続いている。



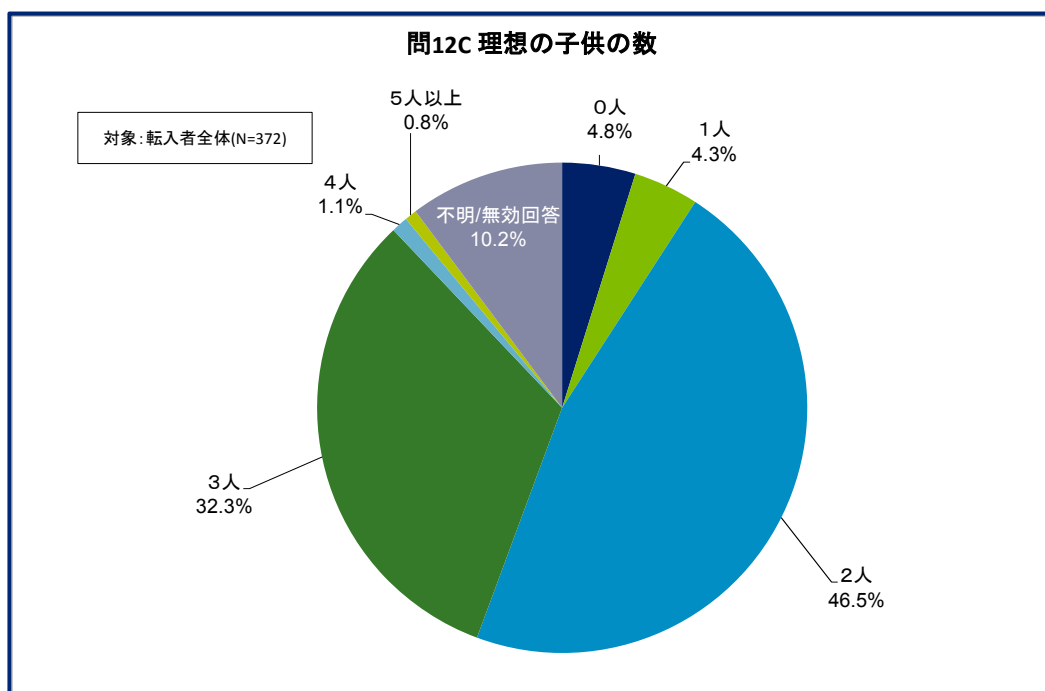
(サ) 子どもの数

① 子どもの数 (問 12A、12B、12C)

- ・ 現在の子どもの数、今後の子どもの予定数及び理想的な子どもの数は次のとおりである。
- ・ 現在の子どもの数は、「0人」(33.9%)が最も多く、次いで「2人」(28.8%)、「1人」(18.8%)となっている。
- ・ 今後の予定数も、「0人」(51.9%)が最も多く、次いで「2人」(14.8%)、「1人」(12.1%)となっている。

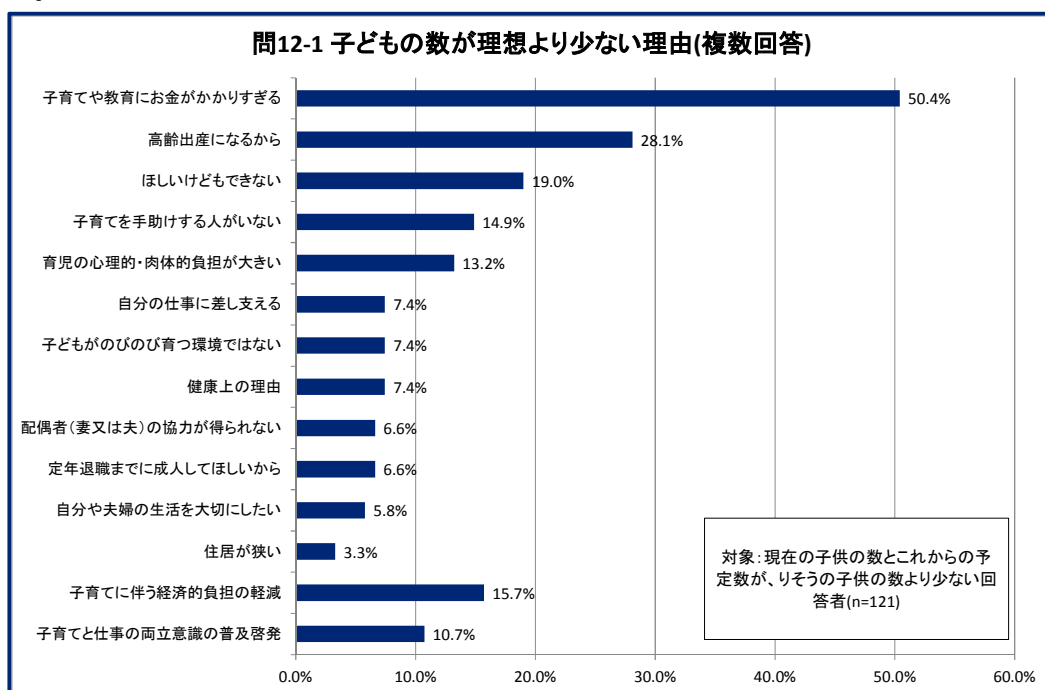


- ・ 理想的な子どもの数は、「2人」(46.5%)、「3人」(32.3%)が多くなっている。
- ・ なお、平均数を計算すると、2.25人となる。



② 理想の子どもの数より現在と今後の子どもの数が少ない理由 (問 12)

- ・ 現在の子どもの数と今後の予定数の合計が理想数よりも少なく回答した者は、全体の 32.5%である。
- ・ 理由をきいたところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」(50.4%)が最も多く、「高齢出産になるから」(28.1%)、「ほしいけどもできない」(19.0%)が続いている。



(シ) 子どもの数が増えると思う施策・対策(問 13)

- ・ 子どもの数が増えるための支援・対策をきいたところ、「安定した雇用の確保」(63.2%)が最も多く、「子育てに伴う経済的不安の軽減」(54.6%)が続いている。

